

社会貢献支援財団、 第3回「こども読書推進賞」の受賞者を発表

～ 3 団 体 が 受 賞 ～

社会貢献支援財団（会長・猪熊葉子）は、第3回「こども読書推進賞」の受賞者を発表した。

当財団は日本財団の支援の下、社会の各分野で顕著な功績を上げられた方を表彰する社会貢献者表彰を行っているが、その分野の一つとして、こどもたちの読書習慣の定着と向上を進めた功績を表彰する「こども読書推進賞」を設置し、今回3回目となる。

第3回となる今回は、昨年12月24日までに寄せられた252件の推薦の中から、国際児童文庫協会（ICBA）、紫波町ほん太ネット、こころにミルク編集部、計3組の受賞が決定した。副賞の「日本財団賞」として、受賞者の活動に関わる図書館に50万円相当の図書が贈られる。

また、今回の選から漏れた功績内容については、僅差のものが多くみられ、中でもとくに優れたこども読書推進の活動を行っている7件の推薦候補者に、今後一層積極的に活動を続け、こども読書推進の成果を挙げて頂くことを期待し励ます意味で、奨励賞が贈られる。

当財団ではこの賞が、ささやかながらでも、こどもたちの読書習慣の向上の一助となることを期待している。

なお、表彰式典は11月16日（水）に、東京全日空ホテルにて行われる。

< 第3回「こども読書推進賞」受賞者 >

- ・国際児童文庫協会（ICBA）（東京都新宿区）
- ・紫波町ほん太ネット（岩手県紫波郡紫波町）
- ・こころにミルク編集部（広島県広島市安佐南区）

（プロフィールは別紙）

< 「第3回こども読書推進賞」の概要 >

- ・募集期間 平成16年10月1日～16年12月24日
- ・推薦件数 252件
- ・授賞件数 3件
- ・副賞 日本財団賞（50万円相当の図書を活動に関連する図書館へ寄贈）

< 報道関係のお問い合わせ先 >

社会貢献支援財団 TEL03(3502)0910 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル〒105-0001
お問い合わせ：事務局

< 社会貢献支援財団と「こども読書推進賞」について >

社会貢献支援財団（FESCO）は、昭和 46（1971）年設立以来、日本財団の支援の下、社会の各分野で顕著な功績を挙げられながら、社会的に報われる機会の少ない方を対象に、その貢献に感謝して労をねぎらうため、社会貢献者表彰事業を行っています。これまでの 34 年間の表彰件数累計は、11,612 件に上っています。すでに受賞されている方たちにつきましては、財団のウェブサイト (<http://www.fesco.or.jp/>) をご覧下さい。

この社会貢献者表彰の分野として、当財団では平成 15 年度より「こども読書推進賞」を設け、こどもの読書活動の推進者を支援しています。現在、子どもたちの読書離れ、活字離れには深刻なものがああります。経済協力開発機構(OECD)の調査によれば、我が国児童の読書率は、先進国の中で低位であることが明らかになっており、一方、文部科学省の調査によれば、蔵書基準を満たしている学校図書館は公立小学校で 34.8%、中学校で 29.0%に過ぎません。

このような状況に鑑み、児童・生徒の読書習慣の定着と向上に積極的な活動を行っている全国各地の小・中学校、団体等に「こども読書推進賞」を贈り、その読書推進活動を支援することがこの賞の目的です。

候補者のご推薦は、個人・団体を問わず広く一般からいただき、選考は学識経験者で構成される選考委員会が行います。候補者は、こども（小・中学生）の読書推進に積極的な活動を 1 年以上行い、顕著な成果を挙げている学校、団体、グループ、個人。副賞として受賞者の活動に関わる図書室・図書館に、50 万円相当の図書が贈呈されます。図書の選定は受賞者が行います。

〔選考委員〕

猪熊 葉子 （選考委員長 / 聖心女子大学 名誉教授、社会貢献支援財団 会長）
大倉 明 （産経新聞社 編集局次長）
坂本 忠雄 （元「新潮」編集長）
中島 健一郎 （毎日新聞社 常務取締役）
三浦 朱門 （作家、日本芸術院長）

〔後 援〕

内閣府 総務省 外務省 文部科学省 厚生労働省 国土交通省

〔協 力〕

日本財団